

Panda 杯中国研修旅行 感想文

2年 角田 吏映

今回の「Panda 杯中国研修旅行」(7泊8日)では、北京・温州・上海の3都市を訪れました。初めての中国、そして約1週間にわたる異文化での生活は、驚きと感動の連続で、どれも大切な思い出となりました。



中国初日、北京の「国安第一条正安宮ホテル」にチェックイン後、中国の伝統舞踊や歌、変面のショーを観覧しました。夕食後には、池のほとりで無形文化遺産の「打鉄花（だてっか）」を見て、人の手で溶かした鉄を打ち上げて花火のようにするという技に驚かされました。



国安第一条正安宮ホテル（北京）

翌日は、漢服を着て「開城式典」を見学、ホテル内の歴史資料展示コーナーも鑑賞しました。続いて「藍印花布」という藍染め体験にも挑戦しました。板やビー玉を使って模様をつけ、専用の液に浸す工程は、日本の藍染と似ており、親しみを感じました。出来上がったハンカチはとてもきれいな色合いでした。



藍印花布 体験

空き時間にはホテルの敷地内を散策し、小さな動物園のような場所を見つけました。そこにはポニー、クジャク、ガチョウ、キジなどがいて驚きました。その後は博物館を見学し、孔子を中心とした中国の歴史について学びました。孔子の教えは中国だけでなく、日本や韓国などにも根付いているのだと実感しました。

「北京二十一世紀飯店」では、近くのショッピングモールにも行きました。日本では見かけない商品も多く、10人ほどで楽しく買い物をしました。

Panda杯表彰式では、2022年度団体賞のトロフィーを受け取る大役を担い、とても緊張しました。式が終わった後は、2024年度の参加者とは一時的に別行動となり、「首都博物館」を見学しました。そこでは皇后の装飾品や衣服、土器などの展示に加え、洋務運動や第一次・第二次世界大戦の資料もあり、学びの多い時間となりました。



Panda杯表彰式（北京）

次に訪れた温州はローカルな雰囲気のある街で、中国語の方言も耳にしました。「忠義街歴史文化街区」では、活字印刷の体験をし、自分で選んだ漢字を版に印刷して、うちわを作りました。

夜は「非遺之夜」という無形文化遺産フェスティバルに参加し、迫力あるパフォーマンスや職人へのインタビューを見ました。自分たちが体験した藍染めのパフォーマンスもあり、より理解が深まりました。

また、初めて留学生以外の中国の学生と一対一で交流する機会がありました。緊張しましたが、自分の知っている中国語を使い、わからないところは翻訳機能や英語を使って会話をしました。とても楽しく、良い勉強になりました。

山での焼き窯作り体験では、うまくいかず、気がついたら粘土がなくなってしまうしましたが、これも良い経験でした。

温州から上海へ移動した日は、「中国眼谷」という施設を見学し、目に関するさまざまな知識を学びました。白内障などの視界体験や、動物の目の見え方、目に良い食べ物など、興味深い展示がたくさんありました。

その日の夕食の際、参加者の誕生日を祝うためにサプライズで大きなバースデーケーキ

が登場し、みんなでお祝いしました。とても温かい雰囲気、印象に残っています。



バースデーパーティー

最終日はほとんど移動でしたが、今回の研修旅行で、たくさんの人と出会い、交流を深めることができました。最初はみんな初対面でしたが、別れ際にはお互い別れを惜しむほど仲良くなっていました。

この研修旅行は、多くの発見と学びにあふれた、かけがえのない時間でした。そして、「また中国に行きたい」「外国語をもっと学びたい」という新たな目標もできました。今回の旅は、そんな前向きなきっかけを与えてくれる素敵な経験となりました。



温州大学博物館



中国大使館にて（東京）